

議事1

泉佐野市地域公共交通計画策定に向けて

目 次

- 1 前回協議会議事の振り返り1
- 2 前回からの変更点2

1 | 前回協議会議事の振り返り

	ご意見・ご質問	回 答
1	・P11「⑧公共交通の年間利用者数」は、鉄道と路線バスとコミュニティバスが算出対象となっている。公共交通のカバー率の算出にデマンド交通を対象とするのであれば、本格運行された場合、利用者数も実績に加えてもよいのではないか。 ・今は導入されていないため基準値として記載はできないが、本格運行された時には加味してもよいと思うが、その点はいかがか。	新たな交通サービスを導入した際の考え方について追記しました。
2	・P8「2公共交通サービスの充実による市民の満足度向上」、2つめの「HPにおける公共交通に関する情報更新等の実施回数」で基準値がないのは、今は実施されていないということか。	現在の実績を追記しました。 今年度は計画策定のため地域公共交通協議会を頻回に開催しているため、例年より更新頻度が高くなっている状況があります。
3	評価基準「④泉佐野市が主体的に運行するコミュニティバスの満足度」について、「どちらともいえない」の割合を減らすのではなく、「満足している」という回答の割合を高めていくような指標の方がよいのではないか。	前回協議会では説明が不足しておりましたが、ご指摘のとおりコミュニティバスの満足度を高める指標として設定しております。その指標の目標値の数値的な考え方として「どちらともいえない」の半数が「満足している」「どちらかといえば満足している」へ転換した場合の割合を設定しています。

2 | 前回からの変更点

■ ご意見・ご質問①への対応状況

評価指標⑧ 公共交通の年間利用者数	
目標設定の考え方	○公共交通を維持していくため、市民の公共交通利用をもって公共交通を支えていく必要があります。 ○令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通の利用が落ち込んでいる中、生活様式の変化や人口減少を勘案すると、コロナ禍前の水準まで利用を回復することは難しい状況です。2035年（R17）推計では、本市の人口は現在より約8,000人（8%）程度減少することが予測されている中、コロナ禍前の水準（令和元年）に対して-8%程度の利用者数を目標値として設定します。 ○<u>路線の再編等により、公共交通サービスの提供内容に変更がある場合は、算出方法を適宜見直し、新たなサービス導入時にはその利用者数を算出式に加えることとします。</u>
算出方法	<u>算出式：（鉄道の年間乗降人員）＋（路線バスの年間乗降人員）＋（コミュニティバスの年間乗降人員）</u> 鉄道の年間乗降人員： ・観光利用などの影響を受ける（関西空港駅・りんくうタウン駅）を算出対象外とする ・泉佐野市統計書のデータを計上する。南海電鉄は「年間乗降人員」、JRは「年間乗車人員」に2を乗じた数値を計上する 路線バスの年間乗降人員： ・泉佐野市統計書に掲載される南海ウイングバスの年間乗降人員を計上する コミュニティバスの年間乗降人員： ・いずみさのコミュニティバスといずみさの観光周遊バスの年間乗降人員の合計値を計上する
基準値	17,139,219人 令和5年度実績値
目標値	20,000,000人 令和16年度実績値
使用データ	市保有データ
評価時期	毎年進捗状況を確認する

2 | 前回からの変更点

■ ご意見・ご質問②への対応状況

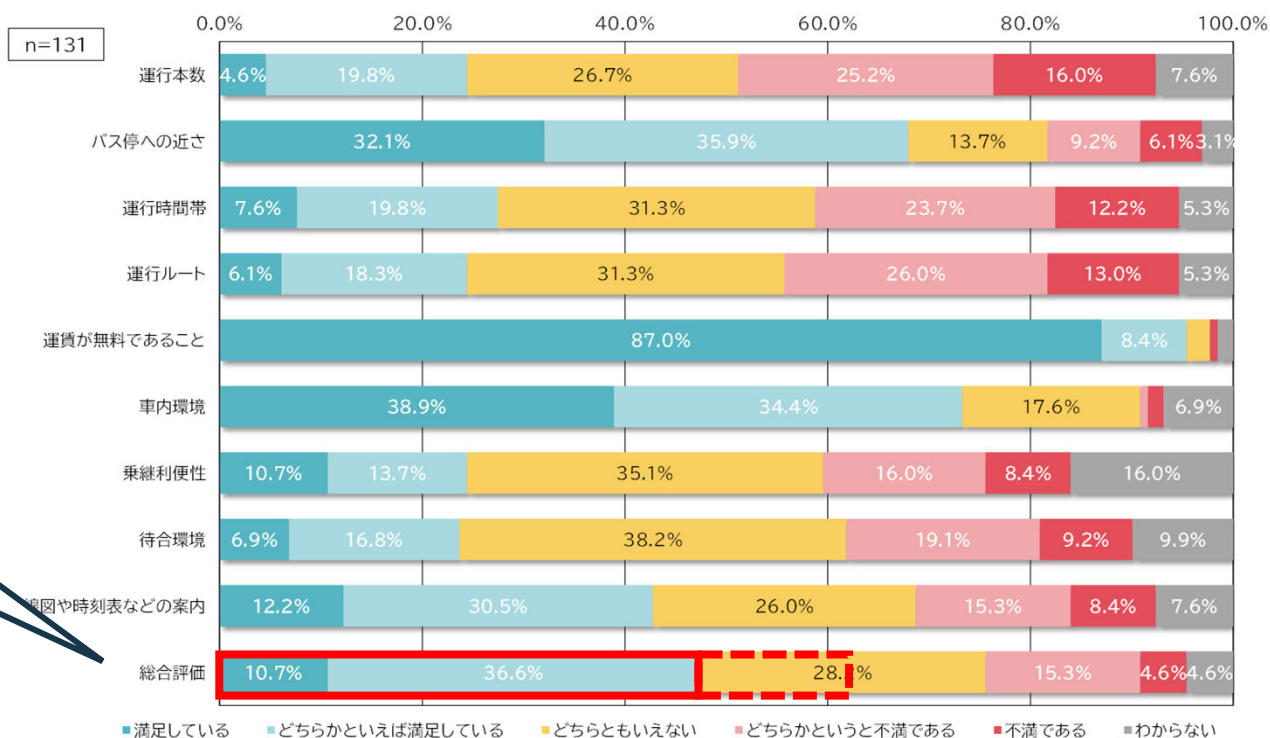
計画目標	評価指標	基準値	目標値
1 市内各所から 市中心部への 公共交通アクセ スを確保	①公共交通人口カバー率	91.5% (R6 年度)	基準値以上 (R16 年度)
	②新たなモビリティや交通形態の 導入件数	—	1 件以上（累積） (R16 年度)
	③自家用車の交通分担率	39.8% (R2 年度)	基準値以下 (R16 年度)
2 公共交通サー ビスの充実によ る市民の満足 度向上	④泉佐野市が主体的に運行するコ ミュニティバスの満足度	47.3% (R5 年度)	60.0% (R16 年度)
	⑤泉佐野市 HP における公共交通に 関する情報更新等の実施回数	6 件 (R6 年度)	3 件/年以上 (毎年度)
	⑥重度障害者タクシー料金助成事 業の利用回数	5,716 回 (R5 年度)	6,000 回 (R16 年度)
	⑦路線バスの運賃助成事業の利用 率	16.5% (R5 年度)	28.3% (R16 年度)
3 市民の公共交 通に対する意 識の向上	⑧公共交通の年間利用者数	17,139,219 人 (R3 年度)	20,000,000 人 (R16 年度)
	⑨地域が主体となった(地域と連携し た)移動手段確保に向けた活動件数	1 件 (R6 年度)	1 件以上（累積） (R16 年度)

2 | 前回からの変更点

■ ご意見・ご質問③への対応状況

評価指標④ 泉佐野市が主体的に運行するコミュニティバスの満足度	
目標設定の考え方	○市民アンケート調査において、泉佐野市のコミュニティバスの総合評価について「どちらともいえない」(28.2%)と回答している市民のうち、約半数が「満足している」「どちらかといえば満足している」へ転換した際の値を目標とします。
算出方法	市民アンケートで「コミュニティバスの総合評価」を「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えた割合
基準値	47.3% 令和5年度実績値
目標値	60.0% 令和16年度実績値（計画改定時に実施するアンケートによる調査を想定）
使用データ	市民アンケート調査
評価時期	令和16年度

▼コミュニティバスに対する満足度



総合評価の「満足している」、「どちらかといえば満足している」を向上させる目標値の基準として「どちらともいえない」の半数が転換した際の値を採用